



新たな民間認定こども園が 2園オープンします

【問合せ】 こども育成課

令和8年4月、北豊中町にあった「みらいずこども園」が寿町(条南幼稚園跡地)に移転し、リニューアルオープン！
また、東港公園のリニューアルにあわせ、公園内に自然をいっぱい楽しめる
「認定こども園ほーみい」が新たに開園します！
泉大津市の子育て環境がさらに充実！新たにオープンする2園を紹介します。

みらいずこども園



「みらいずこども園」は、学童保育や習い事教室、地域交流カフェにフィットネスまで併設した次世代型福祉複合拠点iro×iro BASE(いろいろベース)ことぶき内にリニューアルオープンします。

iro×iro BASEことぶきでは、子どもの安全に最大限配慮しながら、地域の人々が自然に集まれるスペースやエリアが設置され、「地域とつながる場づくり」を建物全体で形にしています。



明るくて広い、開放感のある保育室で子どもたちは地域の人たちに見守られながらのびのびと生活することができます。

認定こども園 ほーみい



「認定こども園ほーみい」は、東港公園のリニューアルとあわせて、同公園内に新しくオープンします。

公園内にはたくさんの木々があり、森の中にたたずんでいるかのような園舎では、自然を感じることができます。

公園の敷地内という立地をいかし、子どもたちは遊びの幅を広げ、その中で試行錯誤や成功体験を重ね、成長していくことができます。



YouTubeでも紹介中！

市公式YouTubeチャンネルで配信している「IZUMIOTSU NEWS」3月号は、子育て特集！市長がオープン前の認定こども園を訪問し、先生とともに施設や保育の特色を紹介しています。

また、公立園の給食や食育への取り組みの解説に加え、おやつとして提供を開始した米粉入りで無添加の「おづみんパン」を試食！

そのほかにも、マタニティ応援プロジェクトや7か月児訪問ギフト事業など、市独自の子育て施策の魅力が満載です。

動画は
こちらから



時代の変化を先取りした「更なる一手」

令和8年第1回市議会定例会で、南出市長が市政運営にかかる施政方針を述べました。全文は、市ホームページに掲載しています。

市民の皆様から3期目の市政運営を託されて1年が経過しました。この1年は、国内外の情勢が激変する「激動の年」でした。アメリカでは関税引き上げや移民政策の厳格化が進められ、長期化するロシア・ウクライナ戦争や中東情勢など地政学的リスクも高まり、国際秩序は転換期を迎えました。

国内では、大阪・関西万博の開催や初の女性首相の誕生など次世代に希望を与える出来事があった一方で、物価高騰、深刻な米不足、国民医療費増大による負担増など、生活を直撃する難題が押し寄せました。こうした激動の時代にあっても、市民の皆様の暮らしと真の健康を守るため、時代の流れを先読みしながら「官民連携」「市民共創」の理念のもと、市政運営に邁進してまいりました。

まず、「安全・安心な食糧の安定的確保に関する構想」に基づく農業連携は、13自治体に拡大しました。連携先から米を購入する本市独自のサプライチェーン(※1)は、「食による健康増進」の推進に大きく寄与するとともに、昨年夏の米価格高騰時には、民間事業者などの協力も得て、市民限定の「米の特別販売」を実現し、市民の皆様の不安解消につながりました。

また、「マタニティ応援プロジェクト」(※2)では、金芽米を食べたお母さんから生まれた「金芽米ベビー」が約1,300人に達しました。妊娠中の体調不良の軽減、低出生体重児の減少などの効果が実証され、本市発の社会課題解決モデルとなっています。

給食については、昨年8月から中学校で自校調理を開始し、成長期の生徒たちに温かく栄養豊かな給食を提供することで、残食率の低下などの成果につながっています。加えて、金芽米の提供や「ときめき給食」は、全国で注目される本市の魅力となっています。

さらに、これらの取り組みを前進させるべく、「泉大津市熟成米プロジェクト」が始動します。

民間事業者が持つ「米の熟成保管技術」を活用し、長期保管時の食味・品質の変化を検証する取り組みで、「古米」の概念を覆す挑戦です。品質を維持し、付加価値を高める米の熟成や長期保管ができれば、生産拡大、食糧の安定確保、将来への備えなど、社会課題を構造的に変えるモデルになると期待しています。

「未病予防対策先進都市」をめざす取り組みでは、昨年度から「泉大津版未病予防健診」として「腸内環境チェック」と「未病女子チェック(エクオール検査)」を実施。体の状態を早期に

泉大津市長 南出 賢一

施政方針全文はこちら



把握して病気になる前に適切に対処する仕組みを整えることで、QOL(生活の質)の向上や健康寿命の延伸、ひいては国民医療費の削減に貢献します。

防災分野では、防災倉庫「OZU-BO おづぼう」が昨年12月にオープンしました。備蓄物資の効率的な管理と緊急時の迅速な物資供給を可能にするレイアウトで、発災時の対応力を大幅に強化し、平時には、簡易ベッドなどの運用方法の体験を通じて防災意識を高め、防災力を強化します。

これら先駆的な取り組みは、大阪・関西万博で次世代の社会課題解決モデルとして世界に発信することができました。この歴史的な舞台で取り組みを披露し「アーカイブ」(※3)を残せたことは、本市の歩みを未来につなぐ大きな意義があります。

「いずみおおつ「まちなか万博」」では、12団体が核となり、市内で多彩なイベントを開催し、まちはにぎわいを見せました。交流人口の増加、地域産業・文化芸術の振興に加え、団体間の新たな連携が生まれるなど「市民共創」の好事例となりました。

こうした取り組みを推進し、発信してきた結果、「若者に選ばれる自治体ランキング」(※4)で、全国815市区中29位という高い評価をいただきました。これは、市民の皆様や関係諸団体などが一丸となってまちづくりを進めてきた結果であり、「泉大津市なら新しい価値が生まれる、安心して暮らせる」という都市ブランドが確立されてきた証です。

これまで種をまき、育ててきた取り組みは、確かな成果を上げていますが、私たちを取り巻く情勢は楽観視できません。本年11月にはアメリカで中間選挙があり、国際経済の枠組みが揺らぐ可能性があります。国内でも衆議院解散・総選挙の影響で令和8年度予算の年度内成立が難しく、市政運営への影響を注視する必要があります。こうした歴史的な転換期において、市民の皆様が安心感を持って暮らし続けられるようにするためには、時代の変化を先取りした「更なる一手」を打ち出さなければなりません。この難局を乗り越えて、元気な泉大津をつくり、これからも選ばれるまちとなるよう全身全霊で取り組んでまいります。

※1 調達から生産・物流、販売、消費までを含めた一連の流れ

※2 出産予定月まで、妊婦に毎月10kgの金芽米を届ける取り組み

※3 活動の記録 ※4 東洋経済調べ(令和7年6月21日号)

次ページでは、令和8年度の主要事業を紹介します

ことができるまち」を実現し、津をつくる



施政方針全文は
こちら



4

安全・安心を一人ひとりが考え、みんなで作くりあげるまち

●市民の皆様の命と財産を守る

防災倉庫「OZU-BO おつぼう」を積極的に活用し、市民の防災力向上に努めます。また、「地域防災計画」に基づき確実な災害対応ができるよう、災害対策本部の運営訓練を実施します。更に、増加する救急需要に対応するため、高規格救急自動車および高度救命資器材の更新整備を進めます。



5

みんなが住みよい環境が整っているまち

●生活環境の改善

「スポGOMI大会」やごみ拾いSNS「ピリカ」などを通じて環境美化の意識と行動を広げるとともに、樹木などの植栽を取り入れた暑熱対策や、エネルギー・資源を大切にする取り組みを補助金制度で支援します。

●特色ある公園づくり

旧戎小学校校舎解体後の跡地を活用して移転する戎町公園を、多様化する市民ニーズに対応した特色ある公園として整備します。



●市水道事業と大阪広域水道企業団との統合協議

人口減少による料金収入の減少や老朽化施設の更新費用の増大、技術職員の不足などの課題解決に向け、令和9年4月を目標に、大阪広域水道企業団との統合について協議を進めます。

6

地域資源を活かしたにぎわいが生まれ、再生、発展するまち

●観光情報の発信強化

これまでの発信方法を進化させ、在阪留学生などの外国人や市民の協力のもと、多言語による観光紹介動画を作成し、国内外に積極的に発信します。

●事業者の支援と育成

市内事業者が抱える経営課題解決に向け、専門知識や実務経験を持つ副業プロフェッショナル人材を活用する「プロ人材活用支援事業」を継続するとともに、「キッズフリマ事業」を継続実施することを通じて、将来、市内で創業者として活躍する人材を育てます。



7

新たな力を取り入れ、柔軟にアップグレードし続けるまち

●市民サービスの向上と業務効率化

市役所に来庁することなく手続きができるよう行政手続きのオンライン化を推進し、利用の促進を図ります。また、固定資産税家屋評価における家屋図作成と、災害時の家屋被害認定調査の双方に活用できるデジタルツールを自治体で初めて導入します。

●財政運営基盤の強化

今後5年間の財政運営の指針となる「第3次泉大津市財政運営基本方針」を策定・公表するとともに、当面取り崩しや支出の見込みがない保有基金・現金の、預金や債券での積極的な運用を進めます。



「安心感をもって暮らし続ける 元気な泉大」

1

みんなが互いに繋がり、理解し、
共感しあうことで新たな刺激が生まれるまち

●フカキ夢・ひとづくりグローバル人材研修

国際的な視野と主体性を養い、日本人のアイデンティティを育むため、市内在住の高校生・大学生などを対象に、海外派遣研修を実施します。

海外での語学学習、現地の文化・歴史体験、現地の人々との交流を通じて、将来にいきる原体験を提供します。



2

主体的に学び、生涯にわたって
学びの環境を自由に選ぶことで成長し続けるまち

●ときめき給食の継続と、快適な学習環境の提供

物価高騰が続く中でも、保護者負担なくオーガニック給食を提供するとともに、小学校給食を無償化します。

また、猛暑日の増加を踏まえ小中学校施設の空調機器について再整備の設計に着手します。更に、浜小学校において、地域交流ゾーンの整備と災害時の機能強化を図る長寿命化改良工事の設計に着手します。



●文化財の保存と活用

泉大津市文化財保存活用地域計画の策定に着手するとともに、この計画の重要な取り組みとして、貴重な民家である「寺田家住宅」「藤原家住宅」について、国登録文化財への申請を進め、文化遺産の核として活用します。



3

みんなが生き生きと、心豊かに健やかに暮らせるまち

●子育てしやすい環境づくり

子どもの育ちと保護者の多様なライフスタイルに対応した支援として、保育所などに入所していない6か月から満3歳児が利用できる「こども誰でも通園制度」やファミリーサポートセンターでの新しい短時間預かり「ぷっち」を開始します。また、民間認定こども園2園を開園し、特色ある教育・保育環境の充実を図ります。



●健康と食の取り組みを推進

「食べることは生きること」をテーマにした園児向け「にじいろクッキング」や保護者向け「きがるにクッキング」を実施し、健康づくりの大切さなどを感じられる機会を創出します。また、「コメがつなぐ自治体間農業連携首長協議会(コメサミット)」を開催し、全国共通の課題解決に向けたネットワークを形成するとともに、本市独自のサプライチェーンを活用して「コメEXPO in 泉大津」を開催し、米や農産物を安価に購入できる機会を創出します。

●高齢者が住み慣れた地域で 元気に暮らせる社会をめざして

高齢者を対象に、地域の学校施設で給食を食べながら参加者同士で交流する「シニアいきいき給食会」を開催し孤食を防ぐとともに、介護予防講座を開催し健康寿命の延伸をめざします。また、認知症高齢者などが行方不明になった場合の早期発見のため、「みまもりあいアプリ」を周知し、地域での見守り体制を強化します。

●医療体制の安定化をめざして

「泉大津急性期メディカルセンター」を中心とする医療提供体制は、地域医療の質の飛躍的な向上と自治体病院経営の安定化に寄与しています。一方で、「泉大津市立周産期小児医療センター」は分娩数が伸びているものの、全国の多くの自治体病院と同じく、人件費や物価の高騰の影響を受け、経営環境は厳しさを増しています。今後の環境変化に耐え得る運営・経営のあり方について、抜本的な対策を早急に講じます。